

令和4年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立揖斐特別支援学校

学校番号	108
------	-----

自己評価

学校教育目標	<p>児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばし、地域社会に参加していく基礎的・基本的な力を身に付けることができるように、次のことをねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の障がいの状態や特性、発達段階等に応じたきめ細かい教育支援を行う。 ・仲間や地域と共に、たくましく明るく生きる力を育む。 ・児童生徒が主体的に社会参加するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を培う。
評価する領域・分野	「教育課程・教材教具・文書管理等」(教務部)
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度授業参観は2回計画したが、2回目の授業参観週間の初日のみの実施であった。懇談については、学部・学級懇談は実施できなかったが、個別懇談は4回実施できた。 公開の部分では、今年度の感染状況を見て可能な限り機会を増やしていく必要がある。連携の部分では、個別懇談の際に個別の支援計画を活用し保護者のニーズや目標、指導内容等連携を図ることができた。 ・「一人一人にあった教材教具」については教材教具の工夫とともに、教員間で共有財産として共有し、さらに学習の様子の中で保護者へ伝達できるとよいと思われる。 ・データの管理方法や分類方法等改善が必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者や関係機関との連携 授業参観・懇談の日程や実施方法等の工夫 (2) 教材・教具の活用と管理 教材室の確保 (3) 各業務のスリム化とデータの管理の工夫
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や研修を通して詳細を伝達し、共通理解を図る ・専門性向上推進部、キャリア支援部との連携 ・学部会での共通理解と他学部との連携 ・学部教務連絡会の設定(月1回)
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> (1) 伝達や研修を通して策定のポイントや保護者懇談のもち方、関係機関との連携等の共通理解を図る。 (2) グループウェア等を利用し、教材の共有化や情報共有を図る。ICT等を活用した教材作りや個に応じた教材作りを進める。 (3) 業務マニュアルを作成し、マニュアルや文書(様式・見本等)をすぐに検索できるようデータ管理をする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員からの意見 ・児童生徒の様子 ・保護者の意見・感想 ・来校者等、行事参加者の感想

取組状況・実践内容等	<p>(1) 今年度は、授業参観を年3回、個別懇談を年4回実施できるように計画。授業参観は、2回実施、3回目は1月に実施予定。懇談は3回実施、4回目は年度末に実施予定</p> <p>(2) プリント等の教材、パワーポイントを使った教材等それぞれの学年・学部で個に応じた教材作りを行った。</p> <p>(3) 各担当で、業務の効率化のため、作成文書の整理やマニュアル化を行った。</p>
評価の視点	評価
(1) 伝達や研修を通して策定のポイントや保護者懇談のもち方、関係機関との連携等の共通理解を図ることはできたか。	A (B) C D
(2) グループウェア等を利用し、教材の共有化や情報共有を図る。ICT等を活用した教材作りや個に応じた教材作りを進めることはできたか。	A (B) C D
(3) 業務マニュアルを作成し、マニュアルや文書(様式・見本等)をすぐに検索できるようにできたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> 授業参観 学校対応の感染防止策によって、実施することができた。2日間設定し、分散して参観する方法で密にならず、年3回実施することができた。また、希望性にする事で、より多くの保護者に参加していただくことができた。 分散して授業参観を行うことで、安心して保護者の方に参観していただけた。 ICTを活用して児童に分かるような教材やプリント等の作成に努めた。クラス別のファイルに整理して保存しているが、共有化を図ることはできていない。 業務マニュアルが作成してあったことで、適切なタイミングでスムーズに業務を行うことができた。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 懇談、授業参観の回数は今年度並みで実施する。 コロナ禍で実施していなかった学部懇談を行う。 グループウェアでの共有促進を図っていく。 マニュアル作りは継続して行う。

評価する領域・分野	「保健管理・安全管理」(健康安全部)
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「コロナ対策での医療機関との連携」で、「わからない」「あまりあてはまらない」の意見があり、学校側の取組が保護者へ伝わっていない状況が考えられる。コロナ対策について、保健だよりで情報を発信していく。 「児童生徒への安全配慮、確実な緊急時対応」で、1割程度の否定的意見や「わからない」があり、学校側の取組が保護者へ伝わっていない状況が考えられる。PTAと連携した防災研修の実施や、学校通信で防災情報(命を守る訓練等)を発信する。 「清掃・整理による教育環境の整備」で、全体的に「あまりあてはまらない」「わからない」があり、取組の不十分さがあると考えられる。安全点検の結果や修繕を組織で確認する。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)保護者や外部機関と連携をし、児童生徒の健康・安全管理に努める。</p> <p>(2)職員の危機管理意識を高め、学校環境の安全管理を進める。</p> <p>(3)危機管理体制を整備し、児童生徒の防災教育を進める。</p> <p>(4)運動会の安全な企画運営に努める。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 健康安全部会 ・小・中・高等部会 学校保健安全委員会・医療的ケア検討委員会 アレルギー対応委員会 運動会運営委員会
目標の達成に必要な具体的取組	<p>(1)児童生徒の健康・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種健康診断を実施し、事後指導を行う。 栄養教諭と連携し、年間を通じ食育の指導や摂食指導研修を実施する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応マニュアルを整備し、事故の防止と緊急時の対応について、職員や保護者に周知を図る。 ・医療的ケア児の緊急対応訓練を実施し、職員と保護者で対応の共有を図る。 <p>(2)危機管理意識の向上と学校環境の安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット・アクシデント事例と防止策を全職員で共有する。 ・施設及び設備の安全点検（日常、毎月、定期）と修繕を確実にを行う。 ・安全点検や熱中症指数測定を組織で確認し、徹底を図る。 <p>(3)危機管理体制の整備と防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家と連携して土砂災害を想定した避難訓練、引き渡し訓練を実施し、マニュアルの改善と職員や保護者への周知を図る。 ・命を守る訓練、防災に関する取組等、年間を通じ防災教育を行う。 <p>(4)運動会の安全な企画運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策を行い、児童生徒の体調管理、熱中症防止に努める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康状態、児童生徒の取組の様子 ・保護者からの意見、感想(アンケート結果) ・職員からの意見(アンケート結果) ・学校医や防災専門家、地域の方からの意見
取組状況・実践内容等	<p>(1)・全ての健康診断と事後指導を実施した。歯磨き指導は実施せず。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の指導は、栄養教諭と連携して実施した。 ・食育講演会及び摂食指導研修を夏季休業中に実施。 ・アレルギー対応について、対応委員会や起案により組織で確認した。 ・医療的ケア児の緊急時の目安や、緊急時の対応を複数の看護師で確認した。 ・熱中症指数の測定は、午前午後の測定と記録を保健室が担い、玄関に掲示し、周知を図った。 <p>(2)・安全点検（日常、毎月、定期）を組織で実施し、必要箇所の修繕をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットやアクシデント事例を掲示板に載せ、周知を図った。 ・水泳指導はコロナ禍で実施せず。 <p>(3)・火災時・土砂災害時を想定した命を守る訓練を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き渡し訓練は、係の人数を縮小し、運動場と校庭を使用した確認をした。 ・防災の専門家と連携し、土砂災害を想定したマニュアルの改善をした。 <p>(4)・運動会は新型コロナウイルス感染防止のため、各学部、学年、重複グループ等で集団を縮小し、期日を分散して実施した。保護者の参観はオンラインで実施。</p>
評価の視点	評価
(1)保護者や外部機関と連携し、児童生徒の健康・安全管理ができたか。	A (B) C D
(2)危機管理意識の向上と学校環境の安全管理ができたか。	A (B) C D
(3)危機管理体制の整備と防災教育を進めることができたか。	A (B) C D
(4)運動会の安全な企画運営ができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)児童生徒の健康・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染防止に努め、全ての健康診断と事後指導の実施ができた。 ○食育の指導は、食に関する指導の全体計画を作成し、全学部で実施できた。 ○各医療的ケア児緊急時の目安の周知と、緊急対応マニュアルの改善ができた ○熱中症指数の測定は、一部の職員のみで、全活動時行うことができなかった。 ▲アレルギー対応を組織で対応し、事故の防止につながった。マニュアルの周知と事故が起きた際の対応について訓練が必要。 ▲給食の欠食は、2カ月前の25日前後が締め切りの厳守の再確認が必要。 <p>(2)危機管理意識の向上と学校環境の安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲安全点検表の提出に遅れはあったが、多くの職員が故障・修繕箇所を挙げ、校務補助員や業者と連携して対応することができた。 ▲ヒヤリハット6件、アクシデント13件(医療的ケアアクシデント8件含む)組織内の情報共有を素早く行い、原因と対策の周知が必要。 <p>(3)危機管理体制の整備と防災教育</p>	A (B) C D

<p>○命を守る訓練では、火災発生場所に応じた避難経路の確認ができた。</p> <p>○引き渡し訓練は、係の人数を縮小し、応援体制の下で安全な確認ができた。</p> <p>○帰宅確認、登下校時のルートを確認を保護者や分掌間で連携できた。</p> <p>▲土砂災害を想定した訓練を早期に実施し、職員への周知が必要。</p> <p>(4)運動会の安全な企画運営</p> <p>○新型コロナウイルスの感染状況に応じた、安全な運営を行うことができた。</p> <p>▲次年度もコロナ禍での安全な実施や熱中症の防止に向けた企画運営を進める。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応について、事故防止の確認と緊急対応について、緊急対応訓練を行い、職員や保護者への周知を図る。 ・安全点検の一部をデータ化し、効率化を進める。 ・防災対策委員会を立ち上げ、専門家や分掌間で連携し、防災マニュアルの改善を進め、職員や保護者への周知を図る。 ・運動会について、熱中症防止や職員減を踏まえ、再来年度以降の実施方法を、運営委員会を中心に検討する。

評価する領域・分野	「生徒指導・特別活動」 生活支援部
<p>現状及び保護者を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童生徒の信頼関係、教職員への相談のしやすさについては、保護者から高評価していただいている。児童生徒の様子について保護者と密に情報交換を行いながら連携し、引き続き信頼関係の向上に努めて行く必要がある。 ・体罰防止やいじめ防止に関する項目では、肯定的評価の減少と、「わからない」の増加が見られる。周知が不十分ではないかと考えられる。児童生徒の様子の変化を敏感に察知し、他の分掌と連携を図りながら、いじめの未然防止に努める必要がある。 ・緊急時への対応については、引き続き、非常変災時や登下校の安全に関する情報をきちんとお伝えし、連携を図っていく必要がある。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 情報モラル教育の継続的な実施を図る。 (2) 仲間のよさを認めたり思いやったりする心の醸成に努める。 (3) 学校生活での生徒の様子の変化を見落とさないようにし、いじめに関するアンケート、教育相談アンケート、保護者等との連絡ノートなどからも情報を得て、組織的に対応できるよう、各担当部署との連携を図る。 (4) 自発的なMSリーダーズ活動を進める。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援部 ・専門性向上推進部 ・各部会 ・校内ケース会議、連携支援会議、生徒支援委員会 ・いじめ防止等対策検討委員会 ・人権教育推進委員会 ・MSリーダーズ（高等部生徒）
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 情報モラル教育の継続的な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な使用方法に関する児童生徒への指導とともに保護者への啓発を行う。また、教職員に対しては、情報モラルに関する情報提供もしていく。 (2) 仲間のよさを認め合ったり思いやったりする心の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・同年代や異年齢との交流を図り、その中で、仲間の気持ちやいろいろな考え方、よさを感じられるような活動を計画し、実施する。 (3) 児童生徒の様子の変化や各種アンケート結果等の情報共有及び対応についての組織化 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の情報を共有するとともに、対応する教職員の体制や役割について検討し、対応する。 (4) 自発的なMSリーダーズ活動を進める <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通してその意義や意味の指導を行うとともに、主体的な活動を進める工夫をし、自己有用感につながるフィードバックを行う。

達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒からの感想や意見等 ・保護者からの意見 ・児童生徒の集団活動への参加態度 ・いじめの有無や児童生徒同士の関わり方 ・学校評議員をはじめとする外部の方からの評価 ・スクールカウンセラーへの相談内容や児童生徒の変化
取組状況・実践内容等	<p>(1) NTT ドコモスマホ・ケータイ安全教室より講師を招いて、オンラインで実施した。また、各クラスや学年等で定期的実施した。</p> <p>(2) 縦割りグループでの全校集会は実施できなかった。学校スローガンを児童生徒に募集し、横断幕を制作した。また、よいこと見付けにも取り組んだ。</p> <p>(3) いじめに関するアンケートの結果を職員会議で報告したり、教職員に対しての研修を実施したりした。また、他の分掌と連携し、スクールカウンセラーや校内の相談業務担当につないだ。</p> <p>(4) MSリーダーズ全員による地域の清掃活動を実施した。また、西濃地区高校生による交通安全推進大会には代表生徒が参加したり、交通安全啓発ポスターの掲示を行ったりした。</p>
評価の視点	評価
①情報モラルに関わる望ましい態度を育てることができたか。	A (B) C D
②仲間のよさを認めたり、思いやったりする様子が見られたか。	A (B) C D
③地域貢献や交通安全に対しての活動に、自ら取り組む様子が見られたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○情報モラル教育については、外部講師の講話をオンラインで実施した。各クラスでの対応ができたことで、実態に合わせて補足説明ができ、理解の促進につながった。情報モラルに関する学習を継続して取り組めるよう、定期的呼び掛けた。</p> <p>○いじめに関するアンケートや学校生活でのトラブルの中で、状況に応じて専門性向上推進部の校内相談業務担当と連携し、指導・支援を勧めた。また、養護教諭にも協力を仰ぎ、情報共有を図りながら対応した。</p> <p>○仲間のよさを認めたり思いやったりする態度を育てられるよう、「よいこと見付け」を実施した。今年度は、仲間のよさだけでなく自分自身のよかった点についても見付けるように取り組んだことで、「よいこと見付け」に取り組むことができた生徒がいた。</p> <p>▲MSリーダーズ活動が谷汲山参道清掃だけになっているので、活動が中止となった場合、活動ができなくなってしまう。</p> <p>▲交通安全の啓発活動に関しては、後期にポスター掲示に取り組んだ。今後も生徒からの啓発に取り組める活動を行っていきたい。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育の継続的な取組を意識できるよう、教職員に資料等定期的に発信する。 ・MSリーダーズ活動を、学校周辺の清掃活動も計画する。 ・いじめ防止に向けて（予防的対応、早期発見、対処等）、アンケートの実施、保護者との連携、教職員の研修及び情報共有を引き続き行う。

評価する領域・分野	「進路指導」「保護者、地域との連携」「情報提供」キャリア支援部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関とのきめ細やかな連携については、分からないと回答している保護者が多くいた。 ・教職員へのキャリア教育（進路）についての情報提供や研修等の実施についてのニーズがあった。 ・今後も、障がい福祉の法律や制度の変化に応じて、保護者にタイムリーな情報

	や学校の取組等を提供、紹介していく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 家庭及び地域や福祉、労働関係機関と連携したキャリア（進路）支援。 ② 教職員のキャリア教育や進路についての研修の実施。 ③ 保護者へのタイムリーな情報提供。
重点目標を達成するための校内組織体制	・キャリア支援部（学校全体の企画・運営） ・他分掌との連携（教務部、専門性向上推進部） ・小・中・高等部会（一人一人やライフステージに応じたキャリア教育） ・全校職員（職場・事業所見学、職場開拓、職員研修）
目標の達成に必要な具体的取組	① ・個別の教育支援計画や個別の移行支援計画を活用したキャリア教育。 ・農福連携の実施。 ・必要に応じて進路支援会議の実施。 ② 高等部卒業後の進路先や福祉サービス等についての教職員への研修実施。 ③ 学校 HP 等を活用したキャリアの取組や関係機関との連携内容の紹介。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・生徒からの意見、感想 ・保護者や職員からの意見、感想 ・現場実習・企業内作業学習先等からの評価 ・学校運営協議会の意見、感想
取組状況・実践内容等	① 教育活動や各実習等を地元の企業や関係機関と連携して行うことができた。 ② 職員会議でキャリア教育についてや卒業後の進路先等について研修を実施することができた。 ③ PTA 研修会で保護者に進路のことについて話をしたり、進路だよりで各学部の取組等を紹介したりすることができた。
評価の視点	評価
① 適性やニーズに即した進路支援体制の構築、関係機関との連携ができたか。	A (B) C D
② 職員へキャリア教育や進路についての研修を実施することができたか。	A (B) C D
④ 児童生徒や保護者に分かりやすく進路情報や取組を提供することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
① 関係機関との連携 ○農福連携において、JA いび川から作業学習での生徒への技術指導や農林畜産物直売所で作業製品（野菜）の店頭販売をしてもらう等の連携を進めることができた。 ○地域の企業・就業・生活支援センター、ハローワーク、福祉等関係等の外部機関等と高等部卒業後の就労に向けてや各実習等で連携を図ることができた。 ●児童養護施設との連携といった点で会議の持ち方や進め方等について校内でも共通理解を図りながら体制を再構築していく必要がある。 ② 研修等 ○職員会議においてキャリア教育や高等部卒業後の進路先について職員研修を実施することができた。 ●コロナ感染症の状況を考えながら外部講師を招いての研修等を実施できるとよい。 ③ 情報提供 ○進路だよりでは、保護者に児童生徒の取組を伝えるとともに、進路に関する情報提供ができた。 ○OPTA の研修会で進路について話をしたり、高等部保護者向けに外部講師を招いての年金講座を実施したりすることができた。 ●ホームページを有効活用することができなかった。 ●年度初めの高等部保護者に対しての進路説明会を実施できなかった。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設との連携、会議の実施等についてのマニュアルを再構築する。 ・ホームページを有効活用する。 ・高等部保護者に向けての進路説明会を実施する。 ・職員研修を実施する。（外部講師等） ・校内での連携（繋がり）として小・中学部に対して校内作業実習や作業学習の参観や体験の機会を作ったり、作業製品の校内販売等を実施したりする。
---------------	--

評価する領域・分野	「研究研修・教育相談・地域との連携・情報」 専門性向上推進部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童生徒の信頼関係や相談のしやすさ、愛情をもった熱心な教育実践に関して高評価を得ているが、豊かな専門性に関しては前者に比べて若干評価が下がる。今後も相談できるような信頼関係や相談体制は保つとともに、保護者や児童生徒のニーズを的確に捉えた適切な指導と支援を行えるよう、教職員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図る必要がある。 ・センター的機能の役割遂行に関しては、当校の児童生徒や保護者に直接関わる事柄ではないために関心が低い内容となっている。しかし、地域からの相談件数が昨年度のべ230件強あり、当校の専門性を生かした支援に対するニーズが高まっている。センター的機能の実情と保護者との認知には、乖離があるため、保護者に対して活動に対する情報発信をする必要がある。
今年度の具体的なかつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育の専門職として実践力・指導力を高める研修・研究の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 全校研究を中心に、日々の授業改善を通じた実践力・指導力の向上 1-2 児童生徒理解（アセスメント）と教育実践に関する基本的な知識及び実践力の向上 1-3 障害等の特性に応じた ICT 活用の実践 2 学校の組織力を高めるための研修の実施 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 分掌毎に効果的な研修となるよう検討と企画 2-2 教員一人一人の主体性を大切にした自主研修会の実施 2-3 校内教員の「困りごと」を解決するための相談支援 3 特別支援教育の専門性を活かした、児童生徒の実態把握や指導・支援の方法に関する訪問支援の実施 4 地域のスクールカウンセラーや通級指導担当者等との連携協力 5 当校の地域支援センターが地域の支援体制に位置づき、地域の児童生徒のよりよい進路選択が行えるよう助言等の実施（巡回訪問）
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性向上推進部分掌会 ・研究推進委員会及び各研究グループ ・小学部・中学部・高等部の各学部会 ・生徒支援部、キャリア支援部 ・校内（学習支援）相談・子育て療育相談・校内ケース会議・連携会議 ・訪問支援・来校相談支援 ・スクールカウンセラー（SC）/ スクールソーシャルワーカー（SSW） ・コーディネーター会 ・全校職員

<p>目標の達成に必要な 具体的取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 全校研究会の実施 <ul style="list-style-type: none"> 1-1 及び 1-3 「授業改善」への取り組みを通して「専門性の向上」を図る授業研究 1-2 学校支援訪問での全校研究会 2 校内研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> 2-1 日々の指導につながる研修（児童生徒理解・授業作り等）としての自主研修会の実施とオンラインコンテンツの充実 2-1 研修資料の提供（学習・子育て相談より等） 2-2 分掌毎に企画される研修の検討と見直し 2-3 生活支援部・キャリア支援部との連携 2-3 支援会議等の実施 3 訪問支援等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援相談、子育て療育相談、ケース会議や連携会議の実施 ・地域の特別支援教育の実施に関して、各小中学校の担任やコーディネーターをサポートするための訪問支援の実施 4 地域の SC や通級指導担当者等との連携協力 5 各町の教育委員会と連携し、児童生徒の卒業後の姿をイメージしながら児童生徒が学ぶ環境を整えられるよう巡回訪問の実施
<p>達成度の判断・判定 基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究授業および各研究グループでの研究授業における事後検討会での相互評価 ・公開研究会等における参加者アンケート ・全校研究に対する職員アンケート（研修後アンケート） ・保護者アンケートおよび学校評議委員等からの意見 ・児童生徒、保護者からの意見等 ・相談依頼件数や相談後の状況 ・地域の外部機関からの評価
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 全校研究会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ年2回の研究授業を、授業者や研究グループ担当者で連携を取り合いながら研究に取り組んだ。 2 校内研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・職員が自主的に学びを深め、指導力向上を図れるように、公開されている研修会を広報した。また、職員図書や教材教具をリスト化したり整理したりして活用しやすくした。 ・PT、OT、STの専門職の授業支援を通して、知識や技能の向上の実践的な研修を図った。 ・学校での学習活動等が家庭生活で生かしたり振り返ったりできるように通信を発行した。 ・マニュアル作成の作成等により Webex の活用を推進した。 ・各分掌の研修会を職員が集まる機会を用いて実施したり、オンライン配信やオンデマンド配信による研修会を開催したりした。 ・必要に応じて対象学部や学年、生活支援部やキャリア支援部と連携を図り、支援会議や連携会議等を実施した。 3 訪問支援等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の園や学校、または保護者の依頼に応じ、児童生徒の学習・生活の様子等から実態把握を行い、指導や支援について相談支援を実施した。 4 地域の SC や通級指導担当者等との連携協力 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の SC や通級指導担当者で情報共有する機会はなかったが、地域の福祉課

	<p>や適応指導教室、大学等の他機関と連携協力をした。</p> <p>5 巡回訪問の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各町の会議等に参加し、特別支援学校の専門性を生かして適切な学習の場の検討をした。
評価の視点	評価
<p>1 全校研究会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」の観点から授業改善への取り組みを通して、障がいの特性等に 応じた授業実践や ICT 活用等、「専門性の向上」を図れたか <p>2 研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の指導力向上のため、自主的に学びを深められるような講師の講演会や 先進校等の研修会の提供や専門職の授業支援による実践的な研修ができたか ・保護者が子育てを振り返ったり参考にしたりできる資料の提供ができたか ・Webex の活用した研修会や活用の推進ができたか ・各分掌と連携をして研修の実施、検討を図れたか ・校内外の事案について情報共有を図り、検討し継続した支援が実施できたか <p>3 訪問支援等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援相談、子育て療育相談、ケース会議や連携会議が実施できたか ・地域の特別支援教育の実施に関して、各小中学校の担任やコーディネーターをサ ポートするための訪問支援が実施できたか <p>4 地域の SC や通級指導担当者等との連携協力ができたか</p> <p>5 各町の教育委員会と連携し、児童生徒の卒業後の姿をイメージしながら児童生徒が 学ぶ環境を整えられるよう巡回訪問を実施できたか</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
成果・課題	総合評価
<p>1 全校研究会の実施</p> <p>○研究授業や事前検討会、事後検討会を通して、授業者をはじめ各グループ職員が「個 別最適な学びのための手立て」を考え、検討することを通して、授業改善を図ることが できた。</p> <p>○ビデオ記録による研究授業の参観や事後研究会などの方法を工夫して、研究を深め、 専門性の向上につながった。</p> <p>●「個別最適な学び」「協働的な学び」の考え方を踏まえ、更に一人一人が授業改善を 図っていく。</p> <p>2 研修会の実施</p> <p>○教員の主体的な学びのために情報提供や環境の整備に努めた。</p> <p>○学部や学年、生活支援部やキャリア支援部と連携を図り、児童生徒や教員の困りごと や問題になりそうなことに対して支援会議や連携会議等を実施できた。</p> <p>●組織として動くための情報集約の仕方のシステム化を図ったり、解決方法を蓄積して コーディネーターのスキルアップをしたりする。</p> <p>3 訪問支援等の実施， 4 地域の SC や通級指導担当者等との連携協力， 5 巡回 訪問の実施</p> <p>○地域の特別支援教育のセンター的機能の役割を意識し、各所に出向き相談支援や児童 生徒に対する支援や環境の提案、適切な学習の場の検討を行うことができた。</p> <p>●特別支援学校からの情報発信をすることで、地域の幼保小中学校の特別支援教育を推 進していけると良い。</p>	<p>A B C D</p>
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を通して、一人一人が実践力をつけるための研究会のもち方の工夫 ・教育相談や支援訪問にかかる専門性の向上のため、コーディネーター同士で事 例検討会を実施 ・特別支援学校の授業方法や個別最適な学びのための手立ての工夫、教材教具等

	の情報発信
評価する領域・分野	「保護者との連携・広報」 渉外広報部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康で安全な学校生活への対応について、保護者より高評価を得ている。PTA活動では、コロナ禍に対応した親子防災教室の実施や災害備蓄品の購入を行っている。今後は、更に学校と連携をして防災研修や計画的な災害備蓄品の購入を進めていく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策を最優先にした学校行事等の実施、計画については、高評価を得ている。PTA活動では、年度当初よりオンライン研修会を企画したり、保護者からのニーズの高い進路に関する研修が休校になった折にはオンライン研修に切り替えたりした。また、役員会も状況に応じてオンライン役員会に変更し実施していた。今後もオンラインやオンデマンド等を適宜使用した活動を視野に入れていく必要がある。 ・保護者のPTA活動や同窓会活動に対する意識やニーズに差がある。今後は、活動や行事の精選や効率化を図る必要がある。 ・児童生徒作品展を通して、地域から当校の教育活動や特別支援教育への理解を得ている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 児童生徒の健全な発達及び福祉推進のために保護者、関係諸機関との連携を図ると共に、保護者、教職員が共に学び活動することで教育環境の改善や充実を図る。 (2) PTA行事や役員の活動および専門委員会活動の内容や取組み方の見直しや工夫をする。 (3) 同窓会役員と連携を取り、見通しをもって行事の計画を立て、運営に協力する。 (4) 当校の教育活動を地域の学校等へ発信し、特別支援教育への理解と啓発に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渉外・広報部 ・ 健康安全部・生活支援部（防災関係）、キャリア支援部（研修会関係） ・ PTA役員会（PTA活動の企画、運営） ・ PTA専門委員会（広報、研修、福利厚生各委員会活動） ・ 同窓会支援担当（同窓生への連絡、同窓会活動のサポート） ・ 理解啓発担当（特別支援教育への理解と啓発）
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> (1) ・保護者や児童生徒、職員が一体になってベルマーク活動や行事についての意識を高め、校内整備や地域の学校への啓発活動を行う。 ・学校と連携して非常時用物品の備蓄や防災に関する取組を親子で行ったりすることで、防災への意識、啓発に努める。 (2) ・PTA行事や役員の活動および各専門委員会の行事を精選したり、オンラインや書面開催を活用し、回数を減らしたり内容を見直したりする中で有意義かつ効率のよい活動になるよう工夫する。 (3) ・同窓会代表保護者の意見を汲み取りつつ、社会状況も配慮した行事の計画を立てる。 (4) ・児童生徒の作品展を、児童生徒の居住地で定期的に行う。また、地域の作品展に当校の児童生徒の作品を出品する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や職員からのアンケート等による意見、感想 ・地域からの意見、感想 ・各学部会 ・企画委員会
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> (1) ・コロナ禍で活動が制限される中、分散してベルマーク活動を行ったり、広い会場（サンサンホールや体育館）で距離をとりながら研修会を行ったりと工夫して活動を行うことができた。 ・夏休み期間中に各家庭で「通学ルートと避難場所等を確認しよう」という取り組みを行うことで、親子で防災への意識を高める活動をPTA防災として行った。また、この活動結果を学校と共有を行った。

	<p>(2) ・ P T A行事や役員の活動および各専門委員会の行事を精選し、内容を見直すために保護者へアンケートを行ったり、本部役員会で検討したりしながら有意義な活動になるよう工夫することができた。</p> <p>(3) ・ 同窓会代表保護者の意見を汲み取りつつ、社会状況も配慮した行事の計画を立てることができた。</p> <p>(4) ・ 児童生徒の作品展を、児童生徒の居住地で定期的に行ったり、地域の作品展に当校の児童生徒の作品を出品したりすることができ、展示会場に設置したアンケートでたくさんの回答(高評価)を得ることができた。</p>
評価の視点	評価
① 保護者・関係諸機関と連携し、教育環境の改善や充実、保護者の教養の向上を図ることができたか。	A (B) C D
② 役員会や専門委員会等の内容や方法を見直し、有意義な活動ができるように工夫できたか。	A (B) C D
③ 児童生徒作品展やP T A会報を通して、地域の学校等や保護者へ発信し、教育当校の活動や障がいのある児童生徒への理解を広めることができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>○ P T A研修会を2回実施した。広島市西部こども療育センター管理栄養士の藤井葉子先生のおられる広島とサンサンホールをオンラインで繋いで食育の話を伺ったり、当校進路指導主事から地元の進路先の情報や就職に向けての話を伺ったりすることができ、コロナ禍においても工夫して保護者の研修の機会を確保できた。</p> <p>○ P T A会報を2回発行した。今年度は、コロナ禍で保護者や地域の方の来校機会が少ない分、たくさん児童生徒の写真を載せて普段の様子が分かるように掲載内容を工夫することで、地域の学校等や保護者へ発信していくことができた。</p> <p>○ ベルマーク活動では、学部ごとに分散開催をして、密にならないよう工夫して実施できた。また、高等部生徒が行っている委員会活動(ボランティア委員会)でもベルマークの仕分けを行い、学校全体で取り組むことができた。</p> <p>○ 執行部では、コロナ禍でも工夫してたくさんの活動を企画して行うことで、保護者がP T A活動に対して理解を深めたり、児童生徒の学校生活を支えたりすることができた。(P T A防災として夏休みに親子で行える「通学ルートと避難場所等を確認しよう」という活動や、わいわいカフェと称して保護者が交流できる会(年3回)、夏祭りの代わりにサンタクロースからプレゼントを貰う「サプライズイベント」、学習発表会での推奨服リサイクル等)</p> <p>▲ コロナ禍が続く中、P T A活動が保護者の負担とならないように、今後も役員や会員の意向を基に、P T A活動やP T A行事の精選や効率化を図っていく。</p> <p>○ コロナ禍でも定期的に児童生徒作品展を実施できた。協力いただける地域の施設で多くの作品を展示し、作品を通じて地域への理解を深める機会を設けることができた。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍が継続するとみられるので、状況に応じて役員会や委員会活動、P T A行事、同窓会活動等を役員や保護者の意向を基に、コロナ対応の中でも工夫して行ったり負担感の軽減を図ったりしていく。 ・ 児童生徒作品展に参加された地域の方から、アンケートで高評価をいただいているので、来年度も継続していく。

学校関係者評価 (令和5年2月1日実施)

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍でも、授業や行事等工夫して実施されている。 ・ 「仲間のよさを認めたり思いやったりする態度」に対し、仲間のよさだけでなく、自分のよかったことを見付けることはよいことだ。 ・ 「MSリーダーズ活動」に対し、交通安全には気を付けてほしいと思うので、ポスター掲示の活動のようにできることで全校に啓発しているので継続するとよい。 ・ 会議日程を、年間で決めておいていただけると、会議に参加しやすい。

